

笑顔で元気なまち 福江



福江校区まちづくり推進計画

福江校区コミュニティ協議会

目次

序章 はじめに

- ① コミュニティ協議会長あいさつ 1
- ② 計画改定の目的 2

第1章 校区概要

- 第1項 校区の現状 4
- 第2項 構成地区の現状 7
- 第3項 校区等のまちづくり経過等 9

第2章 現況・課題等

- 第1項 住民意識 13
- 第2項 地域課題・長所・資源 15
- 第3項 まちづくり現況図 17
- 第4項 土地利用計画・整備計画 19

第3章 将来像等

- 第1項 地域コミュニティ活動の必要性 20
- 第2項 地域の将来像 21
- 第3項 まちづくりの方針 21

第4章 主要施策

- 第1項 施策の展開 22
- 第2項 まちづくりの主要施策 23
- 第3項 まちづくり計画図 27

第5章 推進体制

- 推進体制 28

資料編 策定組織・経過

- ① 策定組織 29
- ② 策定経過 30
- ③ 地震・津波避難マップ（地区別）
 - 長沢地区 31
 - 福江地区 32
 - 保美地区 33
 - 向新地区 34
- ④ 空中写真で見る福江校区 35



序章

はじめに

①コミュニティ協議会長あいさつ

福江校区コミュニティ協議会 会長 山本 五夫

福江校区コミュニティ協議会は、長沢・福江・保美・向山の4つの自治会で構成され、中央部の福江市街地を農地が囲むといった商業・農業・漁業が混在している地域で、経済と文化の中心を担ってきた地域です。

平成17年10月1日田原市と合併し、平成19年に『福江校区まちづくり推進計画』を各種団体代表の皆様と協議を重ね策定してまいりました。当初計画策定から2度の見直しを経て今年で16年目を迎えます。

平成23年度に『シンボルマーク』とキャッチフレーズの『笑顔で元気なまち 福江』を公募により決定し、福江校区まちづくり推進計画に掲げた『笑顔で元気なまち 福江』を実現するために市民館を拠点として、校区住民をはじめ校区コミュニティ協議会、自治会、各種団体、行政等が一体となり事業に取り組んでいます。

『笑顔』の源には、まず子供たちの笑顔と元気さが必要であり、それが地域の活力や明るさに繋がると考えています。

特に、地域において世代を超えた交流の場を設けた事業を大切にしています。保育園での『わくわくパーク』小学生と『はつらつ隊』と一緒に花壇の花植、公園の草取り作業、小学生が読み手となる『読み聞かせ会』中学生が参加する地域防災訓練など教育機関と連携を深め事業を実施しています。これは未来に繋げる事業だと思っています。

令和2年度3年度は、新型コロナウイルス感染症により各種行事講座が中止または規模縮小しての開催を余儀なくされました。

今後は、新型コロナウイルス感染症防止対策を行いつつ地域の活性化を進めていきます。福江校区の更なる飛躍と発展に皆様方のご支援ご協力をお願い申し上げます。

令和5年2月15日 策定

令和5年4月18日 承認

福江校区

◎シンボルマーク



※福江のF(エフ)と笑顔がデザインされています

◎キャッチフレーズ

「笑顔で元気なまち 福江」

このシンボルマークとキャッチフレーズは、平成23年度に校区内で募集し、応募されたものの中から白神和彦さん（保美町）の作品に決定したものです。今回の改訂においても継続して使用してまいります。

②計画改訂の目的

■校区まちづくり推進計画

- 校区まちづくり推進計画は、地域主体のまちづくりを計画的に推進するため、概ね10年後の実現を目指し、平成18年度・28年度に市内すべてのコミュニティ協議会で一斉に策定した地域の将来ビジョンです。その中には各地域の現状・課題と将来像・主要施策が掲げられています。
- 計画策定の意義は、毎年度、役員交替が多く見られる地域コミュニティ組織において、地域の課題や活動目標を正確に引き継ぎ、長期展望による継続的な地域づくりの「活動指針」として活用する点にあります。
- 市に対しても、計画の目標や主要施策等の内容・進捗状況について、行政懇談会やまちづくりアドバイザーを通じて伝達しています。地域が“どんなことを目標として、何を求めているか”明確にし、そのための必要な行政施策を求めて行く上でも有効な方法となっています。



計画本編 36頁



計画概要版 4頁

■計画改訂の目的

- 第2期計画改定から6年が経過し、これまでの活動成果や未着手の活動などの中間点検を実施しました。その結果、今後の主要施策等の要否や新規施策の必要性を検討しながら、その有効性を向上させるために、令和4年度に全コミュニティ協議会一斉に一部改訂をすることとなりました。
- 改訂作業は、各コミュニティ協議会において、第2期計画の内容を尊重しつつ、修正・見直し等を行い、第2期計画同様、以下の点に留意しながら、校区の住民・団体等が自らの地域を見直し、地域のあり方を再確認し、地域活動の充実を図るための指針として活用されることを想定しています。



- ア この計画は、地域が主体となって作り上げる“地域のための計画”です。
- イ この計画は、地域の発展を目的とし、法令及び市の基本の方針に反しない必要があります。但し、長期展望の中で、現行の土地利用計画等の転換を想定した将来構想を否定するものではありません。
- ウ この計画は、将来像の実現に向け、個人・地域が主体的に取り組むことを中心に検討しています。
- エ この計画の主要施策等に、市が実施する施策整備等を掲載する場合も、市の事業が総合計画等方針に基づき進められることを理解し、これにより直接的に市に実施義務が生ずるものではありません。

■改訂計画の承認・引継ぎ等

- この改訂計画は、平成29年に改定された福江校区まちづくり推進計画をもとに、更なる検討を重ね、令和5年2月15日の福江校区まちづくり推進計画改定検討委員会において決定しました。
- 今後、校区コミュニティ協議会総会において、この計画の概要・進捗状況を報告するとともに、可能な限り当年度の主要施策に盛り込みながら実現を図っていきます。





第1章

校区概要

第1項 校区の現状

【位置】

福江校区は、田原市西部に位置し、北部は三河湾に面しています。校区の中央には南北に二級河川の免々田川が流れ、東西に国道259号が走っています。中央部には福江市街地があり、農地が周りを囲むといった、商業・農業・漁業が混在している旧渥美町の中心部です。

◎校区位置図



【面積】

8.0平方キロメートル（平成25年度都市計画基礎調査）

【人口の推移】

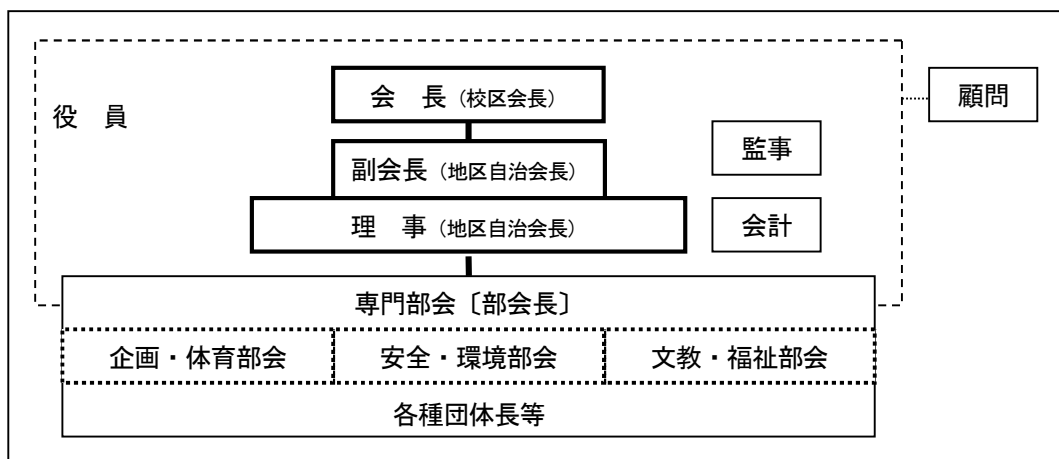
	昭和62年	平成8年	平成18年	平成28年	令和4年
人口（人）	4,839	4,605	4,527	4,196	3,758
世帯数（戸）	1,156	1,158	1,328	1,426	1,394
世帯員数(人)	4.19	3.98	3.41	2.94	2.69

令和4年3月31日現在

【校区運営・組織】

地域の組織として、自治会を中心に活動していましたが、平成17年10月の合併時から校区制を導入し、校区運営の組織体制として、校区コミュニティ協議会をスタートさせました。校区コミュニティ協議会では、「笑顔で元気なまち 福江」をスローガンに、住みよいまちづくり、人づくりを目指し、コミュニティ活動の推進を図る事業を実施しています。

◎組織図



【体制】

福江校区コミュニティ協議会は、福江校区会長、地区自治会長（地区総代）、公職委員及び各種団体の代表者の26名で構成し、役員として会長、副会長、理事、会計、監事、部会長を選任しています。

協議会の活動は、総会決議、役員会の調整を経て、「企画・体育部会」「安全・環境部会」「文教・福祉部会」の専門部会が分担・連携し、構成団体の協力を得ながら実施しています。

【行事】

福江校区では、防災訓練やスポーツ大会、市民館まつり、環境美化運動、福祉活動、市民館教室、青少年健全育成活動など、市民館を拠点として積極的に活動を行っています。

【特色あるまちづくり活動】

第1期計画 継続実施	<ul style="list-style-type: none">・免々田川「ホテル鑑賞会」全面協力（5月下旬～6月上旬）※・免々田川「菜の花・桜まつり」協賛参加（2月下旬～）※・道路クリーンアップ隊活動 ※・校区あいさつ運動（7月・12月）※・福江つるし飾りロード（2月から3月）※・はつらつ隊活動 ※
平成29年度 (2017)	<ul style="list-style-type: none">・校区スポーツ教室（ディスクドッジ・キンボール）・インスタグラム開設・発信 ※・盆踊り教室・福江中学校 国土交通大臣賞（都市景観大賞）受賞・福江公園完成・ポケットパーク（I～VI）完成
平成30年度 (2018)	<ul style="list-style-type: none">・演奏会（市民館まつり）・お菓子まき（校区夏まつり）
令和元年度 (2019)	<ul style="list-style-type: none">・校区夏まつりを市民館で実施 ※・盆踊り教室（保育園・小学校）・はつらつ隊（小学校）
令和2年度 (2020)	<ul style="list-style-type: none">・市民館文化祭開催（新型コロナウイルス感染拡大防止のため市民館まつりを6日間の文化祭に変更実施）・高田交差点「菜の花歩道橋」ラッピング改装
令和3年度 (2021)	感染症対策をしながら市民館活動を実施 <ul style="list-style-type: none">・市民館文化祭開催・親子読み聞かせ会開催（2年ぶり）
令和4年度 (2022)	<ul style="list-style-type: none">・校区まちづくり第2期推進計画改訂作業（5月～3月）・福江公園清掃イベントを開始（7月）・感染症対策を行い、市民館まつり・夏祭りをコロナ禍以前並みに実施

※＝以後毎年実施



免々田川



はつらつ隊と小学生による花壇整備



福江*つるし飾りロード



福江*つるし飾りロード



福江・清田校区クリーンアップ隊



校区あいさつ運動

第2項 構成地区の現状

【校区構成地区の概況】

福江地区は商業、保美地区と長沢地区は農業、向山地区は農漁業と、産業や人口規模などは違いますが、それぞれの特徴を生かした地域づくりを行っています。



◎人口・世帯の状況 (令和4年3月31日現在)

地区	人口	男性	女性	～14歳	15歳～64歳	65歳～	世帯数
長沢	140	62	78	14	75	51	43
福江	2,105	1,015	1,090	209	1,192	704	727
保美	1,319	614	705	152	722	445	545
向山	194	82	112	15	121	58	79
計	3,758	1,773	1,985	390	2,110	1,258	1,394

【地区説明】

長沢地区 自治会長をはじめ3人の自治会役員で構成 平成24年3月21日地縁団体認可

校区の南部に位置し、県道和田福江港線沿いに集落を形成しています。就業者の多くは農業に従事し、露地栽培から施設園芸が中心へと変化しています。地区にはJA愛知みなみの花ポートやマムポート、トムポートなどの大型集出荷場があり、菊やバラなどの花き、メロンやトマト、キャベツなどを全国へ出荷する拠点となっています。

近くには免々田川が流れ、5月下旬から6月上旬にはゲンジボタルの乱舞が見られるなど、自然に恵まれた地区です。



福江地区 自治会長をはじめ10人の自治委員で構成 平成18年3月24日地縁団体認可

校区の中部に位置し、渥美地域の中心として発展してきました。第3次産業従事者が多く、地区の東西を通る幹線道路の国道259号沿いには、金融機関や商店が立ち並んでいます。

地区には、校区の活動拠点である福江市民館をはじめ、消防署渥美分署や福江幹部交番などの公共施設が立地しています。畠神社や潮音寺、栖了院などの由緒ある寺社のほか、大垣新田藩畠村陣屋跡地にはその雰囲気大切に福江公園と城坂などの史跡・旧跡もあり、散策を楽しむことができます。また、松尾芭蕉や種田山頭火、柳原白蓮といった文化人が来訪した地でもあり、明治時代の挿絵画家宮川春汀の生誕の地としても知られるなど、古くから歴史文化が豊かな地区です。



福江公園

保美地区 自治会長をはじめ13人の自治会役員で構成 平成19年12月28日地縁団体認可

校区の西部に位置し、国道259号が東西に、主要地方道豊橋渥美線、県道小中山保美線が保美交差点を境に南北に通っています。

産業は露地野菜、施設園芸、ミカンなどの農業が主となっていますが、近年、飲食店や青果卸販売店、コンビニ店などが増えてきています。また、渥美地区の福祉の拠点である「あつみライフランド」や、地域密着型複合福祉施設「花の里」が開設されています。

保美貝塚や烏丸大納言の墓（宝篋印塔）、稻荷山古墳、杜国屋敷跡などの史跡があり、杜国屋敷跡はポケットパークとして整備され、史跡をめぐる散策もすることができる緑と歴史のある地区です。



杜国屋敷跡

向山地区 自治会長をはじめ3人の自治会役員で構成

校区の北部に位置し、集落の東側は福江港に面しています。この地区は、江戸時代に畠村（現福江町）から独立した新田村で、その昔は塩田があり製塩が盛んでした。就業者の多くは農業と漁業に従事し、施設園芸とアサリ漁がその中心となっています。

施設園芸は、昭和50年代から洋花の栽培に取り組む生産者も多くなり、花き栽培の先進地として名を馳せています。現在でも、菊だけでなくアルストロメリアやグロリオサなどの洋花の花き栽培が盛んです。



グロリオサ

第3項 校区等のまちづくり経過等

①校区の歴史概要

【原始】

校区の歴史は、校区内の遺跡の発掘調査により、始まりは縄文時代中期までさかのぼることができます。保美貝塚からは人骨をはじめ、石器、土器、骨角器などが出土し、自然の中で狩と漁により生活していたことがうかがわれます。珍しい盤状集骨墓という埋葬形式や環状木柱列も見つかっています。



羽根貝塚（現福江市民館周辺）からは、人骨、石器、銅鏃のほか、弥生式土器の完全なものが出土し、また住居の存在も考えられています。

【古代】

奈良時代から平安時代にかけては、渥美郡6郷のうちの大壁郷おおかべごうが旧渥美地域にあたるもつかんとされ、この地区はその一部であった考えられています。平城宮跡出土の木簡もつかんに、大壁郷から「調」として塩を納めていたことが記されています。

【中世】

平安時代末期の永久年間、旧渥美地域（大壁郷）に伊良胡御厨いらごみくりやが成立し、伊勢神宮領となりました。伊良胡御厨は、鎌倉幕府成立後の建久10年（1199）、奉免状により地頭不介入の神領として保障され、南北朝合一期頃くげに公卿領に移行していったとみられています。この地域に伝承されてきた呼称「御厨七郷」には、畠、保美の2郷が含まれています。

南北朝合一後の嘉吉元年かきつ（1441）には、旧伊良胡御厨は公卿清閑寺家領せいかんじとなり、文安元年（1444）には清閑寺家から公卿烏丸家領からすまるに移ったとみられ、戦国期に戸田氏に実権が移るまで烏丸家所領でした。保美農村公園には、応仁の乱（1467～1477）を避けて保美の地に居住した烏丸資任の宝篋印塔が建っています。

以降、戦国時代から安土桃山時代にかけて、この地域は、前期戸田氏、今川氏、徳川（松平）氏が領有、徳川氏の関東移封後は、豊臣氏の配下であった池田氏が領有しました。徳川領国期には、間宮氏が畠、古田、亀山、日出の4か村を領地とし、畠村に居住しています。

【近世】

江戸時代に入ると、家康の関東移封に伴って総州国府台に移っていた間宮氏が元和元年旧領に戻り、上記4か村と伊川津村を領地としました。元和5年（1619）には、間宮氏の後を受けて、女婿に当たる戸田氏が上記5か村を知行、その後額田郡5か村、美濃国大野郡10か村を併せて領地としています。元禄元年（1688）には、大垣戸

田本藩からの分与と延宝2年(1674)に開発された向山新田〔宝永4年(1704)、向山村として畠村から独立〕などを合わせて、大垣新田藩となりました。畠村(現在の福江町)に陣屋を置き、藩領のうち三河国11か村を支配しました。

保美村は、旗本の清水氏、天領、鳥羽藩、相良藩など、支配の変遷が度々みられました。畠村には重立と呼ばれた豪商や資産家が存在し、物資の集散地であったことから海運、商業ともに栄えていました。

【近代・現代】

明治2年(1869)、大垣新田藩は版籍を奉還し、野村藩と改称。畠村陣屋支配の畠、向山、古田、亀山、日出、伊川津の6か村と泉福寺領山田村は野村藩庁管下となり、明治4年には、廃藩置県により野村県管轄となっています。

保美村をはじめ、この地域の天領、旗本知行であった村々は、三河裁判所(慶応4年4月)、三河県(同6月)、静岡藩(明治2年)、静岡県(同4年)と、所轄庁がめまぐるしく変遷しました。その後、明治4年(1871)11月に三河一円が額田県としてまとめられ、翌5年に愛知県に合併し、ほぼ現在の県域となっています。

大小区制、郡区町村制を経て、明治22年(1889)市町村制が施行されると、畠、向山、保美、亀山の4か村は合併して、福江村となりました。明治30年(1897)、福江村は町制を施行し福江町となり、同39年(1906)清田村、中山村を合併し広域化しました。

戦前の福江港は、豊橋や名古屋、半田などとの物流の玄関口として隆盛を極め、福江商店街は、福江座や衆楽館(劇場)、飲食店や呉服屋、食料品店など賑わいをみせていました。

しかし、昭和30年代には陸上交通の発達により福江港も物流の玄関口としての役割を終えます。昭和40年代中頃になると、自家用自動車の普及や豊橋への量販店の進出などに伴い福江商店街に陰りがみえ始めました。

平成に入ると、渥美郡広域行政研究会(平成9年)、渥美郡合併問題研究会(同11年)が設けられ、合併について検討されました。その後、平成17年(2005)に渥美町が田原市に編入合併しました。校区制のもと福江、保美、向山、長沢の4自治会で校区の地域づくりが始まりました。



②校区内で行われた主な事業（校区内だけでなく、校区に関係する行事も記載）

- 明治 6年（1873） 畠学校在り設立
- 明治15年（1882） 畠学校、畠村宮脇の新校舎に移転
- 明治20年（1887） 畠学校、古田学校に統合
旧畠学校に古田学校分場を設置
分場畠学校閉鎖
- 明治21年（1888） 畠村に御厨学校開設
- 明治22年（1889） 畠村、保美村、向山村、亀山村が合併、福江村誕生
- 明治26年（1893） 御厨学校を廃し、福江尋常小学校を設置
- 明治27年（1894） 福江尋常小学校、高等科を併置して福江尋常高等小学校と改称
- 明治30年（1897） 福江村が町制施行し福江町へ名称変更
- 明治32年（1899） 福江商談会が発足
- 明治39年（1906） 福江町が清田村、中山村を合併
- 大正13年（1924） 福江商工会が発足
- 昭和 3年（1928） 渥美郡商工連合会が発足
- 昭和 5年（1930） 福江町役場新庁舎が完成
- 昭和16年（1941） 福江尋常高等小学校、福江国民学校と改称
- 昭和22年（1947） 福江国民学校、福江小学校と改称、福江中学校が設立
- 昭和23年（1948） 福江高等学校が設立
- 昭和30年（1955） 福江町、伊良湖岬村、泉村が合併、渥美町誕生
渥美町商工会が設立
- 昭和37年（1962） 県道豊橋伊良湖岬線が国道（259号）に昇格
母子健康センター新築
- 昭和42年（1967） 国道259号が全面舗装
- 昭和44年（1969） バス営業所が保美に移転
- 昭和46年（1971） グランドショップアツミレイがオープン
- 昭和47年（1972） 消防署庁舎が完成
地元有志により「ニコニコ会」が発足
- 昭和48年（1973） 国道259号福江バイパス開通
- 昭和51年（1976） 清掃センター、長沢公民館が完成
- 昭和55年（1980） 向新総合事務所が完成
- 昭和56年（1981） 保健センター、斎苑、保美公民館、福江第一公民館が完成
- 昭和58年（1983） 役場新庁舎が古田町岡ノ越に建設され移転
福江第二公民館が完成
- 平成12年（2000） あつみライフランド（高齢者保健福祉センター）が完成



福江町役場



合併祝賀パレード（福江橋）

- 平成17年(2005) 渥美町が田原市に編入合併
福江市民館を設置
- 平成21年(2009) 福江町中紺屋瀬古に現福江市民館(旧福江町役場を改装)を建設(写真1)
- 平成23年(2011) 保美「山喜製糸工場跡地」に地域密着型複合福祉施設「花の里」が開設
旧市民館施設に、デイサービス「福江」が開設
- 平成26年(2014) 福江つるし飾りロード事業開始
豊橋鉄道渥美ショップ前バス停の改良(雨除け・自転車置き場設置)
- 平成27年(2015) 豊鉄バス福江バス停が福江市民館前に移設
- 平成28年(2016) 福江つるし飾りロード事業が都市景観大賞
景観まちづくり活動・教育部門 国土交通大臣賞受賞(写真2)
福江公園・城坂石畳の完成
- 平成29年(2017) インスタグラム開設
福江中学校が国土交通大臣賞授与(都市景観大賞)
JA愛知みなみ本店が岡ノ越(旧渥美町役場)へ移転
- 平成30年(2018) 市民館まつり演奏会を実施
- 令和元年(2019) 校区夏まつりを市民館にて開催
福江中学校と伊良湖岬中学校が統合し福江中学校として開校
福江中学校がコミュニティスクールとしてスタート
向新総合事務所閉鎖
- 令和2年(2020) 新型コロナウイルス感染症により各種行事の自粛・縮小
高田交差点「菜の花歩道橋」ラッピング改装
市民館文化祭6日間開催
- 令和3年(2021) 福江市民館が優良公民館として文部科学大臣賞受賞
福江小学校体育館(避難所)の改修(写真3)
渥美斎場廃止
- 令和4年(2022) グランドショップ渥美レイ閉店(50年の歴史に幕)
福江小学校北校舎長寿命化改修工事



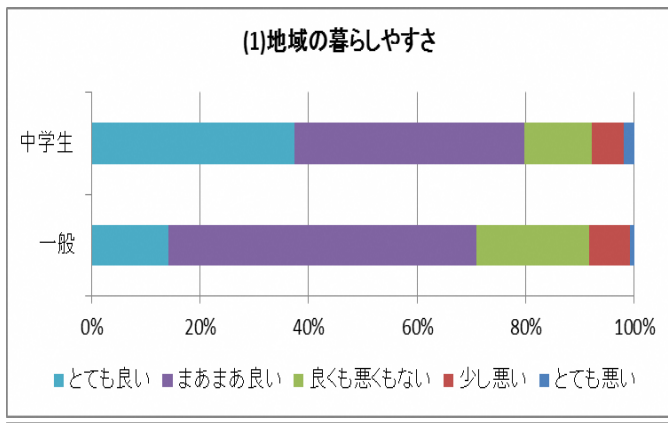


第1項 住民意識 (中学生・住民アンケート調査等)

第1期計画策定時と同じ内容で住民アンケート調査を行いました。また、10年後の地域を支える中学生にも、将来の福江地域に関することを中心にアンケート調査を行いました。

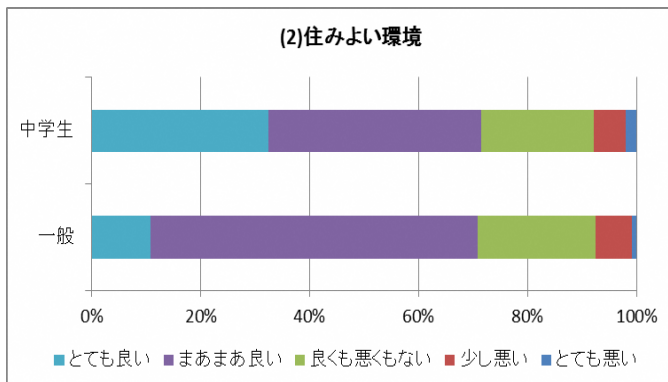
1. 地域について

(1) 地域の暮らしやすさ



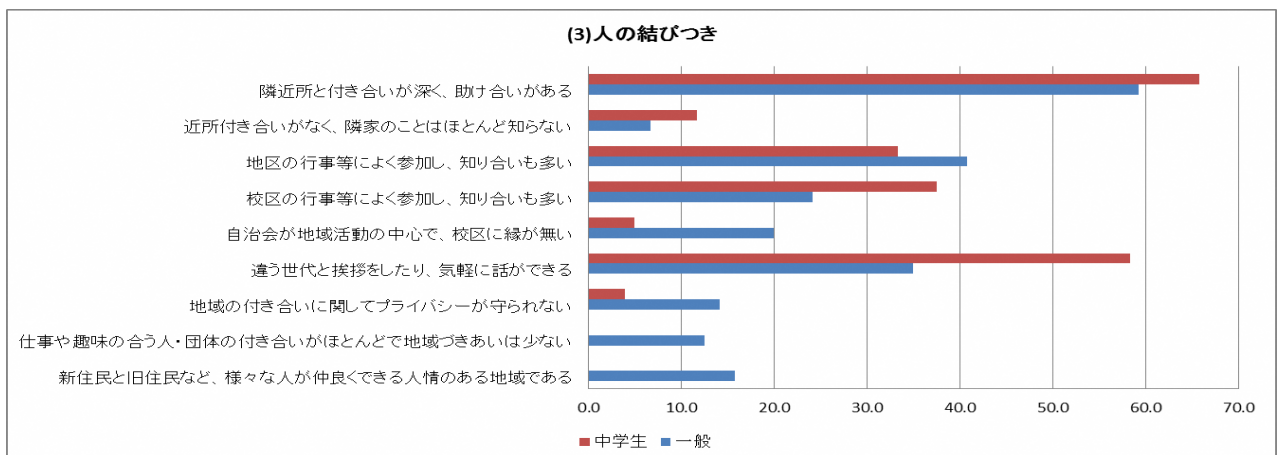
福江校区が暮らしやすいか、という問いに対しては、中学生は80%、一般は70%と多くの方が暮らしやすいと答えています。その理由としては、(3)のアンケート結果に見られるように、近所づきあいが良好である、挨拶や話が気軽にできる、知り合いが多いなどが考えられます。

(2) 住みよい周辺環境

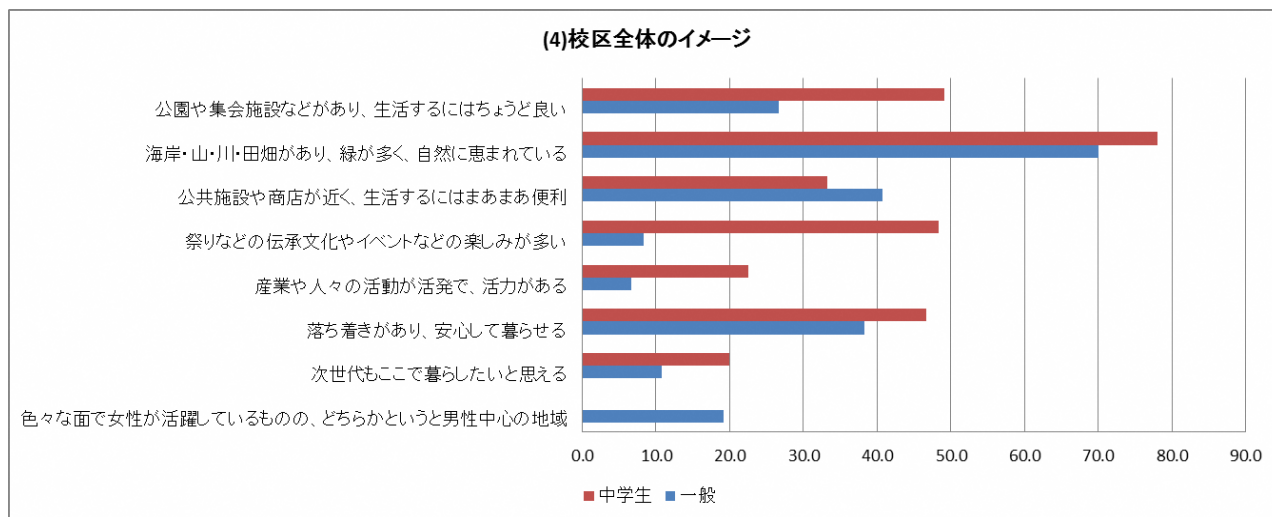


生活環境は良いか、という問いに対して、中学生・一般共に70%以上が良い・まあまあ良いと答えています。その理由としては、(4)のアンケート結果に見られるように、自然に恵まれていて、落ち着きがあり、安心して暮らせる。または、店や学校が近くにあるなど、利便性が高いことなどが考えられます。悪いと感じる理由として、公共交通機関の不便さや、歩道の未設置などがあげられています。

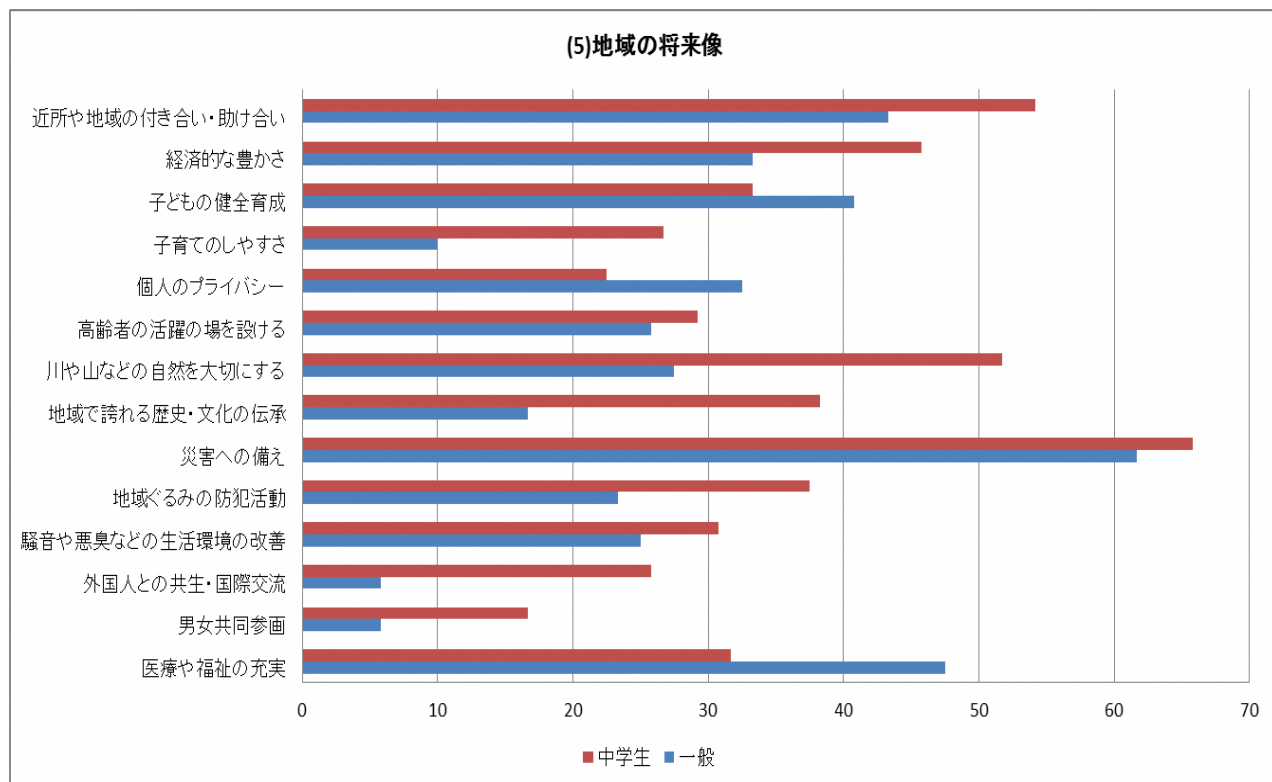
(3) 人の結びつき



(4) 校区全体のイメージ



(5) 地域の将来像



福江校区全体のイメージは、暮らしやすいと感じているようです。現在の自然豊かなまちに、中学生も良い印象を抱いており、将来も大切にすべきと感じていることがわかります。また、現在行われているまつりなどの行事についても、今後も続けてほしいと感じていることもわかりました。

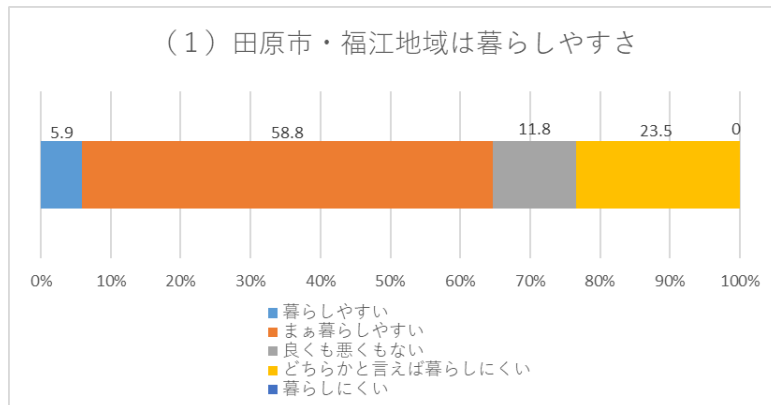
地域の将来については、多くの方が「災害への備え」「医療や福祉の充実」や、「近所や地域の付き合い・助け合い」を必要と感じていることがわかりました。

2. 田原市と福江地域の将来について（小学生・中学生・高校生アンケート調査）

令和4年度地域懇談会を開催し、田原市・福江地域の現状と将来について、福江小学校・福江中学校・福江高校の児童・生徒が、子どもたちの目線から福江校区コミュニティ協議会及び市長をはじめ市の関係部署の部長と意見交換を行い、アンケート調査を行いました。

（1）田原市・福江地域の現状について

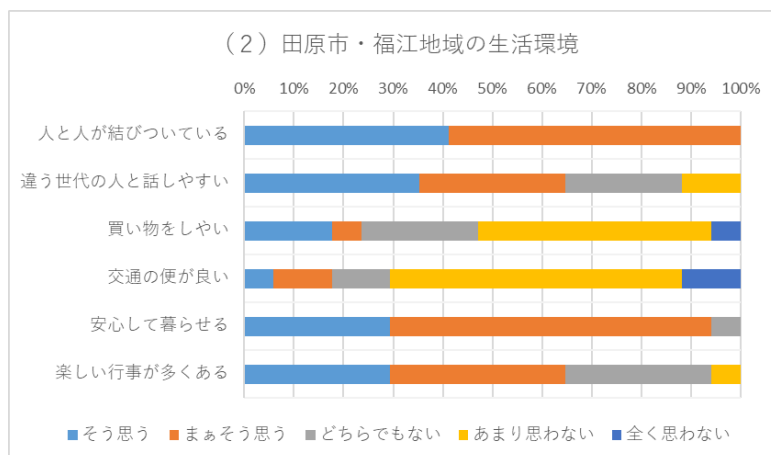
①田原市・福江地域の暮らしやすさ



現状では、6割程度「暮らしやすい」という意見がありました。

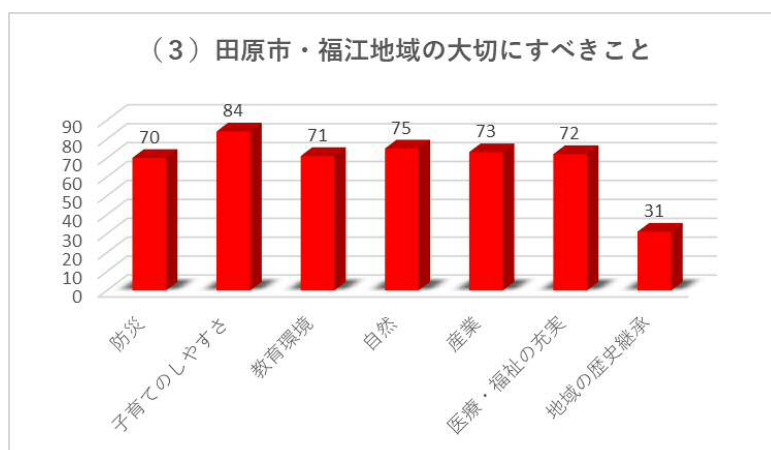
これは現状の生活環境の中でも「人と人が結びついている」、「安心して暮らせる街」であるという意見が多いことから温かみのある暮らしやすい街であることが分かります。

②田原市・福江地域の生活環境



また、2割程度の「暮らしにくい」という意見には、「公共交通（電車）の整備が不十分」・「利便性の良い商業施設が無い」などの意見があり、買い物等に出かける際にも、現状では不便である状況がうかがえます。これら意見のほかにも「働く場所（会社等）がほしい」との意見もありました。将来この地域に住み続けるためにも、これらの問題は本地域の将来につながる重要な事柄だと子ども達は感じており、将来にわたり住み良い街であるために大切にすべきこととして「子育てのしやすさ」「産業」「医療・福祉の充実」などの意見が多くみられた要因であると考えられます。

③田原市・福江地域の大切にすべきこと

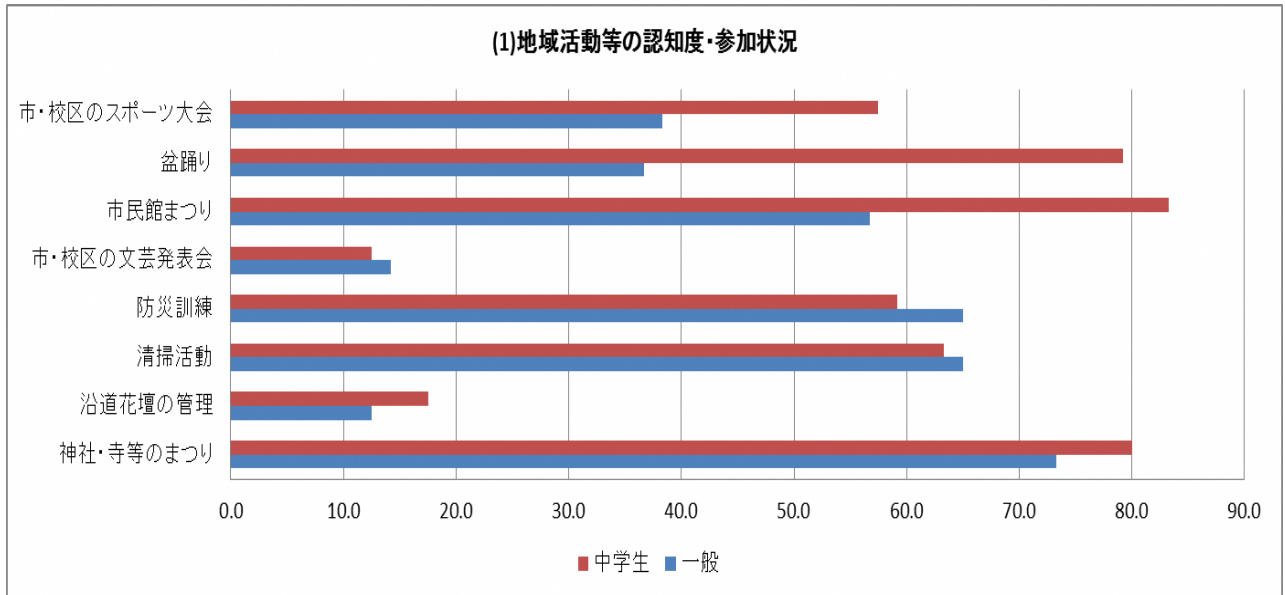


（この文は上記の②の欄に統合されています）

第2項 地域課題・長所・資源

1. 地域活動関連

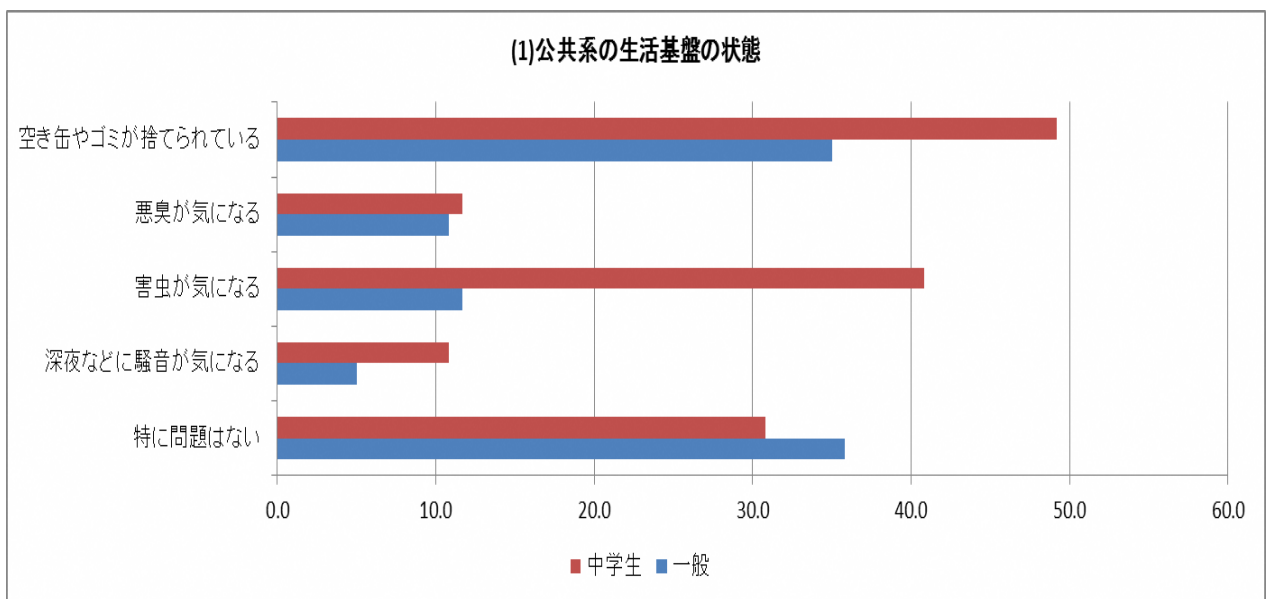
(1) 地域活動等の認知度・参加状況



地域主体で行われている、清掃活動や防災訓練のほか、校区主催の行事（市民館まつり・盆踊り等）にも多くの方が参加しており、地域の連携が強いことがわかりました。特に中学生は、イベントへの参加が活発であり、今後も続けてほしいということがアンケート結果からよくわかりました。

2. 生活基盤・環境関連

(1) 公共系の生活基盤の状態



(2) 生活環境の状況・意見

生活環境については「空き缶やゴミが捨てられている」の回答が多く（中学生49％一般35％）ありました。また、中学生はハエなどの害虫が気になる、一般では道幅が狭く、道路の安全性が低いという意見がありました。

(3) コミュニティ施設等の状況・意見

校区内にある施設のうち、福江市民館については、市民館まつりなどの行事を開催していることもあり、「よく行く」と「たまに行く」を合わせると、約70％の方が利用しているという回答でした。

また、自治会ごとに所有している公民館では、防災訓練などの地域の行事や、諸団体による活動などが行われており、自分が住んでいる地区の公民館にはよく行き、良い施設だと感じていることがわかりました。ただし、中には老朽化が進行している施設もあり、改修が望まれているようです。また、公園についても改良を望むという意見が見られました。



福江市民館多目的ホール



福江保育園

(4) その他の施設や機能等の状況・意見 ※（ ）＝第1期推進計画時のアンケート結果

「商店・飲食店などが近くにある」と答えた方が30％（53％）、「医療、福祉施設が近くにある」が22％（53％）となっており、10年前と比較して、利便性が低下していると感じている方が多いことがわかります。

特に、現在も小児科や眼科が近くになく、今後さらに医師不足の地区となる恐れがあるので、早急な対策が必要と考えられます。

(5) 地域産業の状況・意見 ※（ ）＝第1期推進計画時のアンケート結果

「農地の環境を含めた農業振興」と答えた方が39％（39％）、「地域資源を活かした観光振興」が25％（34％）、「海の恵みを活かした漁業振興」と答えた方が22％（31％）となりました。農業については10年前と同じ結果になりましたが、後継者不足を心配する意見もありました。また、「快適な暮らしのための商業振興」と答えた方が28％（31％）で、地域の特色を生かした産業の発展を望む方が多く見られました。

校区内の良いところ、大切にしていきたいもの

1. 免々田川沿いの河津桜と菜の花
2. 畠神社と神社の桜・イチョウ
3. 潮音寺（杜国の墓、山頭火等の句碑、藤の花）
4. 霊山寺（烏丸大納言の墓（宝篋印塔））
5. 栖了院（間宮水軍間宮直綱の菩提寺—3代の墓）
6. 保美貝塚、杜国屋敷跡、城坂等の史跡・旧跡
7. 福江港（昔の交通の要衝）
8. 市民館・公民館（福江市民館、福江第一公民館、福江第二公民館、長沢公民館、保美公民館）
9. ポケットパーク
10. 高田歩道橋（菜の花のラッピング）
11. 259号沿い沿道花壇（住民の自発的な管理、道路清掃）
12. 免々田川ホタル



免々田川沿いの河津桜と菜の花

1



畠神社

2



潮音寺（藤の花）

3



烏丸大納言の墓（宝篋印塔）

4



城坂

6



高田歩道橋

10



免々田川ホタル

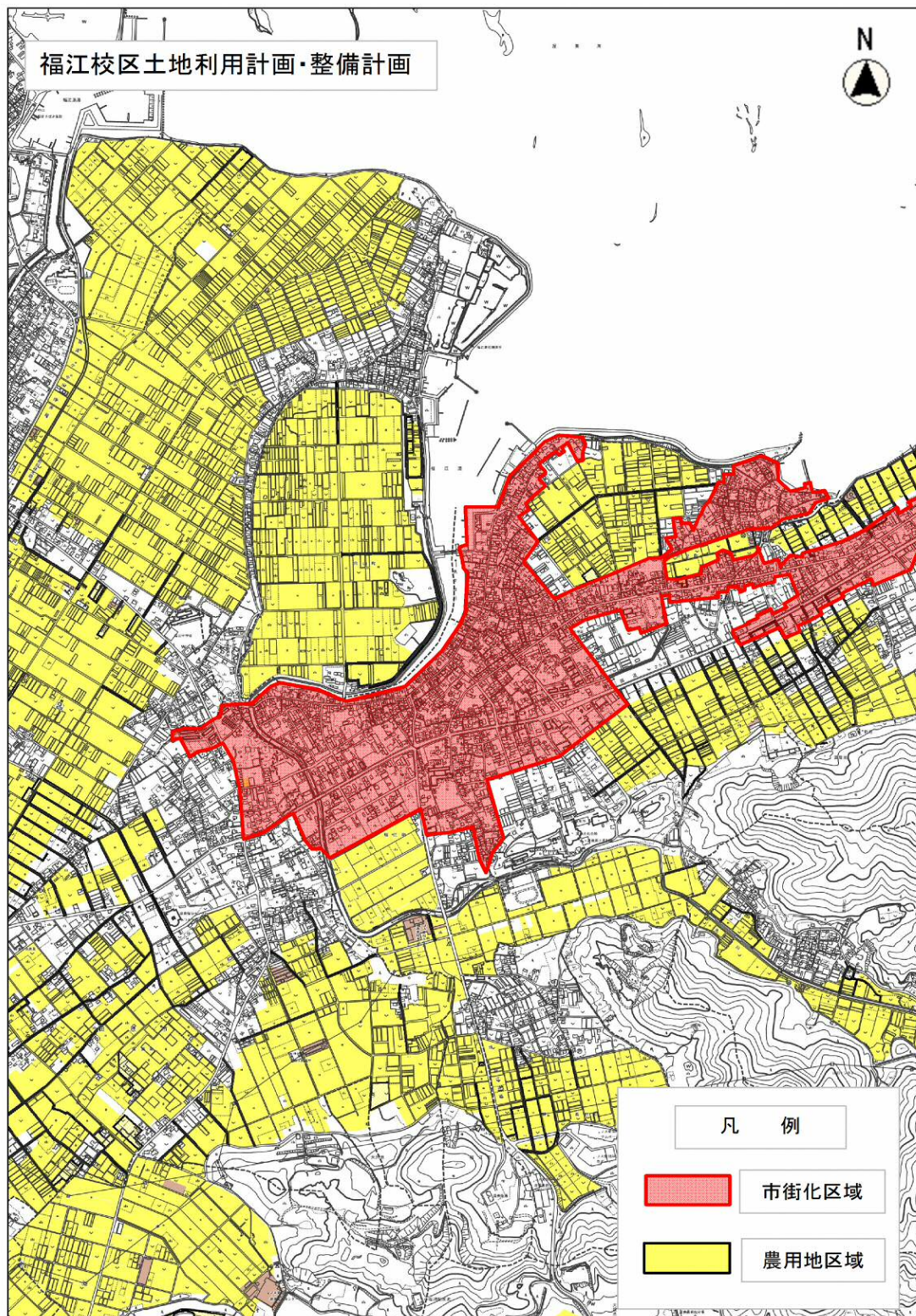
12

改善したいところ

- 丸山医院南の道路の市道認定と拡幅・舗装等
- 市指定史跡保美貝塚の県・国文化財指定
- 樋門操作の簡便化
- 散策路の整備（福江地区まちづくり推進協議会案から）
- 福江市街地の再開発
- 県道小中山保美線・県道豊橋渥美線の整備
- 市街化区域の拡大
- 福江小学校西門側階段の改良・バリアフリー化（避難所へのルート改良）
- 児童公園等の適正管理

第4項 土地利用計画・整備計画

福江校区における土地利用については、関係法令に基づく様々な土地利用上の規制などを調整しながら、校区まちづくりの将来像の実現に向けた取り組みを進めていきます。





第1項 地域コミュニティ活動の必要性

わが国では、世界がかつて経験したことの無いほどの規模とスピードで少子高齢化が進行しています。田原市でも出生率の低下（自然減）と若い世代の流出（社会減）とが相まって人口減少が進んでいます。その結果、学校の統廃合や空き家の増加など様々な問題点が浮上ってきています。

阪神淡路大震災や東日本大震災等で見られた自主防災活動、環境保全、地域福祉活動、防犯・交通安全活動等から、地域の自立の重要性を知ることができました。まず、市民でできることは市民で対処し、地域コミュニティでできることは地域コミュニティで対処し、そのうえで、市・県・国の順に対応する自助・共助・公助の地域づくりが求められています。

田原市は、平成18年策定の総合計画に基づき、平成19年に地域コミュニティ振興計画を策定、平成20年に田原市市民協働まちづくり条例を施行し、地域コミュニティを柱とする協働のまちづくりを推奨しています。コミュニティの力で住民を支え、地域の課題を解決していくためには、二つの力が必要です。

一つ目は「(地域のために) 実行する力」

二つ目は「人づくり」です。

身近なことから取り組み、人と人とのつながりを深め、「住民主体のまちづくり」を目指していきたいと思っています。



第2項 地域の将来像

平成19年2月、福江校区では、およそ10年後を見据え「人が元気 まちが元気 パワフル福江校区」（当初計画）と定めましたが、平成24年の計画改訂に併せ、まちづくりのキャッチフレーズを新たに募集しました。平成23年10月に「笑顔で元気なまち福江」と決定し、市民館まつりでお披露目し、平成29年の第2期推進計画も継続して使用してまいります。

◎福江校区のキャッチフレーズ

「笑顔で元気なまち 福江」

住民が福江校区に愛着を持ち、誰もが笑顔で過ごせる温かなまち、活力がある元気なまちを実現するため、魅力的な人づくりやまちづくりを目指します。



第3項 まちづくりの方針

福江校区の将来像を実現するため、4つの大きな柱を定めました。それぞれの目標を次のとおり掲げます。

みんなで支えあう明るいまち

まちづくり、地域づくりのためのコミュニティ活動を推進し、地域の連帯感が感じられる、心ふれあうまちづくりを目指します。

みんなで築く暮らしやすいまち

住民が快適な生活を営むことができるように、都市基盤、生活環境の整備を図り、住民自らの手で暮らしやすいまちづくりを目指します。

安心して暮らすことのできるまち

自主防犯や自主防災への住民意識の高揚や体制の充実を図り、地域に根ざした活動を促進します。

活力と賑わいのあるまち

地域の伝統的文化を継承しつつ産業基盤の整備や充実を図り、豊かで活力に満ちたまちづくりを目指します。

地域の教育機関、地域住民、関係団体、行政等が協働で、地域のまちづくりを軸とした人材育成と地域の活性化に取り組んでいきます。



第1項 施策の展開

①地域意識・連帯感づくりから具体的活動への展開

地域住民、教育機関、関係団体等が連携して行っている「福江*つるし飾りロード」により地域の連帯感は以前と比べて高まっています。今後は、地域全体で昔からの歴史や今ある自然を活用した景観美化やまちおこしに努めることで「まちの人々のつながり」を一層深めていくことが必要です。まちづくりを軸にした人材教育、地域の活性化に取り組んでいきたいと考えています。

②施策実現のためのその他の留意点

ア) 同じ方向を向いて進もう（目標・目的の共有化と内容の周知）

今回の校区まちづくり推進計画は地区会長（自治会長）を中心に素案を作成し、最終的には福江校区まちづくり推進計画改定検討委員の意見を伺い決定しました。しかしながら、校区全体が同じ方向を向いて進むには、計画の目標・目的・内容を校区の主体者である住民に周知することが必要と考えます。

●周知の方策

- ・「校区まちづくり推進計画」の概要版を全戸配布する。
- ・「福江校区コミュニティだより」「清田・福江校区まちづくり推進協議会だより」を発行するほか、ブログ等を活用した広報活動をいっそう充実させる。
- ・コミュニティ活動の拠点としての市民館が集いやすい市民館として機能し、そこで茶飲み話題として取り上げられるような仕掛けをする。

（ロビーの活用、魅力的な市民館講座の開設、情報発信）

イ) 皆で手を携えて進もう（参加しやすい態勢づくり）

「笑顔で元気なまち、福江」の実現のためには、校区住民がそれぞれ「まちづくり」の主体者であることを自覚する必要があります。そのためにはまず校区主催行事への「参加」がその第1歩です。参加することにより意識や自覚を深めることが期待できます。

●参加しやすい態勢づくりと呼びかけのための方策

- ・「福江校区コミュニティだより」の発行のほか、インスタグラムや校区掲示板（畠神社横）を積極的に活用し、広く広報活動を行う。
- ・だれもがまちづくり活動を積極的に行いやすい環境を作り、多くの住民同士が顔見知りになるようにする。
- ・各種団体相互の連携を強化し点から線へ、線から面へと参加の拡大を図る。
- ・将来の校区を担う小学生から高校生の、校区事業への積極的な参加要請と仕掛けづくりをする。

第2項 まちづくりの主要施策

校区の将来像やまちづくりの方針を実現するために、今後取り組んでいく施策を分野ごとに示します。

1. みんなで支えあう明るいまち

	主要施策	施策の概要	実施主体				
			校区	地区	団体	市	国県
1	新しいサークル作り	市民館等に掲示及び呼びかけを行い、ボランティア活動等を奨励 【実施事業】はつらつ隊 道路クリーンアップ隊	●	●			
2	あいさつ運動の実施	みんなであいさつをし、明るい地域づくりを推進 【実施事業】あいさつ運動	●	●	●		
3	市民館の利用促進	コミュニティ活動の拠点としての利用促進と交流の場づくり及び情報発信 【実施事業】福江校区コミュニティだより	●	●	●		
4	区民との意見交換	市民館に意見箱を設置し、随時に意見交換	●				
5	文化・スポーツ・健康づくり活動の推進	区民の文化・スポーツ・健康づくり活動を積極的に奨励し健康であかるいまちづくりを推進 【実施事業】たはら健康マイレージ事業協力、運動会、ソフトバレー大会、演奏会、各種文化教室	●	●			
6	子どもの健全育成	未来を担う子ども達の健全育成のため積極的に支援を行う 【実施事業】親子おしゃべり広場、市民館ロビー絵画展、夏休みわくわく体験教室、小学校親子観劇会、年長児・小学生作品展、親子読み聞かせ会	●	●	●	●	

2. みんなで築く暮らしやすいまち

	主要施策	施策の概要	実施主体				
			校 区	地 区	団 体	市	国 県
1	美化活動の推進	道路・河川等の美化活動の実施 【実施事業】校区美化運動	●	●	●	●	●
2	生活道路の安全確保	住民が安全に通行できるように 啓発活動を実施	●	●	●	●	
3	ゴミの減量と適正処 理	ゴミの分別徹底と不法投棄の根 絶	●	●	●	●	
4	道路・水路の整備	県・市等に整備の要望	●	●		●	●
5	公園の管理	児童公園等の適正な維持管理	●	●	●	●	
6	環境保全と活用の推 進	美しい自然環境の保全とその活 用の推進および事業主体団体と の協調 【実施事業】免々田川清掃・水 質保全、免々田川菜の花・桜ま つり	●	●	●	●	



3. 安心して暮らすことのできるまち

	主要施策	施策の概要	実施主体				
			校 区	地 区	団 体	市	国 県
1	交通安全街頭指導の実施	地区の交通安全街頭指導の実施の呼びかけ（各種団体・個人・事業所） 【実施事業】交通安全街頭指導、安心安全パレード	●	●	●	●	
2	防犯活動の実施	自主パトロール隊の結成と防犯マップの作成及び防犯灯の再点検 【実施事業】防犯カメラ設置	●	●	●		
3	防災体制の充実	防災意識の高揚を図り、地震・津波等の大災害に対応できる自主防災組織の充実 【実施事業】防災検討会、防災講演会、消火栓格納箱点検、防災台帳更新、災害危険箇所点検	●	●	●	●	
4	減災意識の高揚	災害時の被害を最小にとどめるための意識高揚の呼びかけ 耐震診断・耐震補強、家具転倒防止、非常持出品・備蓄品点検	●	●	●	●	
5	交通安全施設の確認	ガードレール・カーブミラー道路照明灯・信号機等の確認	●	●	●	●	●
6	土地建物等の適正な管理の推進	空地・空家・耕作放棄地の適正な管理についての呼びかけ	●	●	●	●	



3-1 交通安全教室



3-1 交通安全該当指導

4. 活力と賑わいのあるまち

項目	主要施策	施策の概要	実施主体				
			校区	地区	団体	市	国県
1	夏まつり・盆踊り等の実施	夏まつり（盆踊り）・市民館まつりへの協力と参加への呼びかけ 【実施事業】校区夏まつり、市民館まつり	●	●	●		
2	地元の歴史・文化の保全及び継承	福江歴史文学探歩の実施、福江音頭の保存、文化的遺産の説明看板設置、保美貝塚の文化財指定（県・国）への移行、教材「郷土を知る」の作成等 【実施事業】校区歴史勉強会、校区コミュニティだより（校区歴史探訪）	●	●	●	●	
3	校区のまちづくりの推進	地区や世代を越えた交流を図り、活力あるまちづくり・人材育成の推進 【実施事業】園児・多世代間交流会（わくわくパーク）、福江つるし飾りロード	●	●	●	●	
4	まちなみ景観づくりの推進	まちなみ・景観を活かしたまちづくりを軸とする地域の活性化 【実施事業】商業地域再開発	●	●	●	●	●



4-1 盆踊り



4-3 多世代間交流イベントわくわくパーク

この「福江校区まちづくり推進計画」を実現するためには、地域住民、自治会、校区を始め、地域で活動している諸団体、事業所などが一体となり事業推進する必要があります。そのための推進体制として、自治会などの代表で構成する校区コミュニティ協議会が中心となり活動していきます。施策は、校区コミュニティ協議会の各部会が検討・計画し、協力・連携・参加しながら実施します。



① 進行管理

この計画を実現するため、校区コミュニティ協議会（役員等）が中心となって、主要施策等の進捗状況を確認し、各施策の主体となる住民、地区自治会、校区コミュニティ協議会、各種地域団体、行政等の事業実施を促します。

② 計画の周知

計画書（報告書・概要版）等を作成し、校区内の住民・各種団体等に計画内容を周知します。校区コミュニティ協議会の役員は、ほとんどが年度交替するため、総会において計画概要を紹介し、住民に報告することで、地域課題・目標・施策等の共通認識を形成します。

③ 実施の推進

校区コミュニティ協議会として取り組むべき事業は、この計画に基づき、毎年度の総会において事業計画・予算に盛り込み実施します。行政に実施を求める施策については、協議・調整や要望書提出等を行います。

このような活動を展開するために、校区内の地域団体・人材を育成し、地域活動の担い手を拡大する必要があります。

④ 実現の調整

校区コミュニティ協議会は、個々の住民・各種団体・地区自治会等では実現できない課題対応を、関係団体が連携して進める組織です。施策実施状況を把握し、地域課題が解決されるように総括的な調整を行います。



① 策定組織

今回の計画改訂は、福江校区まちづくり推進計画改訂検討委員会が中心となって検討し作成した原案を、令和5年4月の福江校区コミュニティ協議会総会で承認しました。

◎福江校区まちづくり推進計画改訂検討委員会名簿

No.	役職	氏名	所 属	地区
1	会長	山本 五夫	福江校区コミュニティ協議会 会長	福江
2	副会長	菱田 直之	福江自治会 会長	福江
3		石倉 一造	保美自治会 会長	保美
4		片山 裕隆	向山自治会 会長	向山
5		山本 勝美	長沢自治会 会長	長沢
6		山本 勝文	保護司	長沢
7		近藤 秀樹	民生児童委員	福江
8		角谷 政美	民生児童委員	保美
9		石井 敏郎	民生児童委員	向山
10		山本 真至	民生児童委員	長沢
11		森下 宰	小学校PTA 会長	松澁
12		植田 智子	小学校PTA 副会長	福江
13		小川 彰則	中学校PTA 会計監査	保美
14		鵜飼 みなみ	中学校PTA 教養委員長	福江
15		千駄 沙万杏	保育園保護者の会 会長	福江
16		二村 信孝	子ども会 会長	福江
17		小川 誠一	福江自主防災会 防災リーダー	福江
18		鬮目 和吉	保美自主防災会 防災リーダー	保美
19		原 章敏	向新自主防災会 防災リーダー	福江
20		山本 清次	長沢自主防災会 防災リーダー	長沢
21		小久保 雅哉	青少年健全育成推進員	保美
22		宮川 明弘	商工会福江支部	福江
23		石川 知恵子	商工会女性部	福江
24		中村 龍之介	青年経済研究会	福江
25		清田 行雄	清田・福江校区まちづくり推進協議会	福江
26		高橋 講治	清田・福江校区まちづくり推進協議会	福江
27		内藤 浩	市議会議員	福江
28	書記	近藤 めぐみ	コミュニティ主事	福江
29	顧問	宮川 敏彦	前校区会長	福江
	アドバイザー	天野 敏規	田原市役所 文化財課課長	
	アドバイザー	平井 康友	田原市役所 農政課主幹	
	アドバイザー	杉原 直子	田原市役所 街づくり推進課主任	

②策定経過

【計画策定時】

●第1回地域まちづくり計画策定会議

平成28年4月15日 午後4時30分～
自己紹介、役員委員選出、策定趣旨内容説明

●第2回地域まちづくり計画策定会議

平成28年5月16日 午後4時30分～
推進計画素案作成・アンケート（区民、中学生）実施

●第1回福江まちづくり推進計画検討委員会

平成28年12月1日 午後2時30分～
素案揭示、各委員会意見交換

●第2回福江まちづくり推進計画検討委員会

平成29年2月1日 午後1時30分～
修正案揭示、各委員会意見交換及び承認決議

【計画改訂時】

●推進計画改定原案検討会議

令和4年4月～令和5年3月 毎月1回程度開催
計画見直し、素案作成

●第1回福江校区まちづくり推進計画改定検討委員会

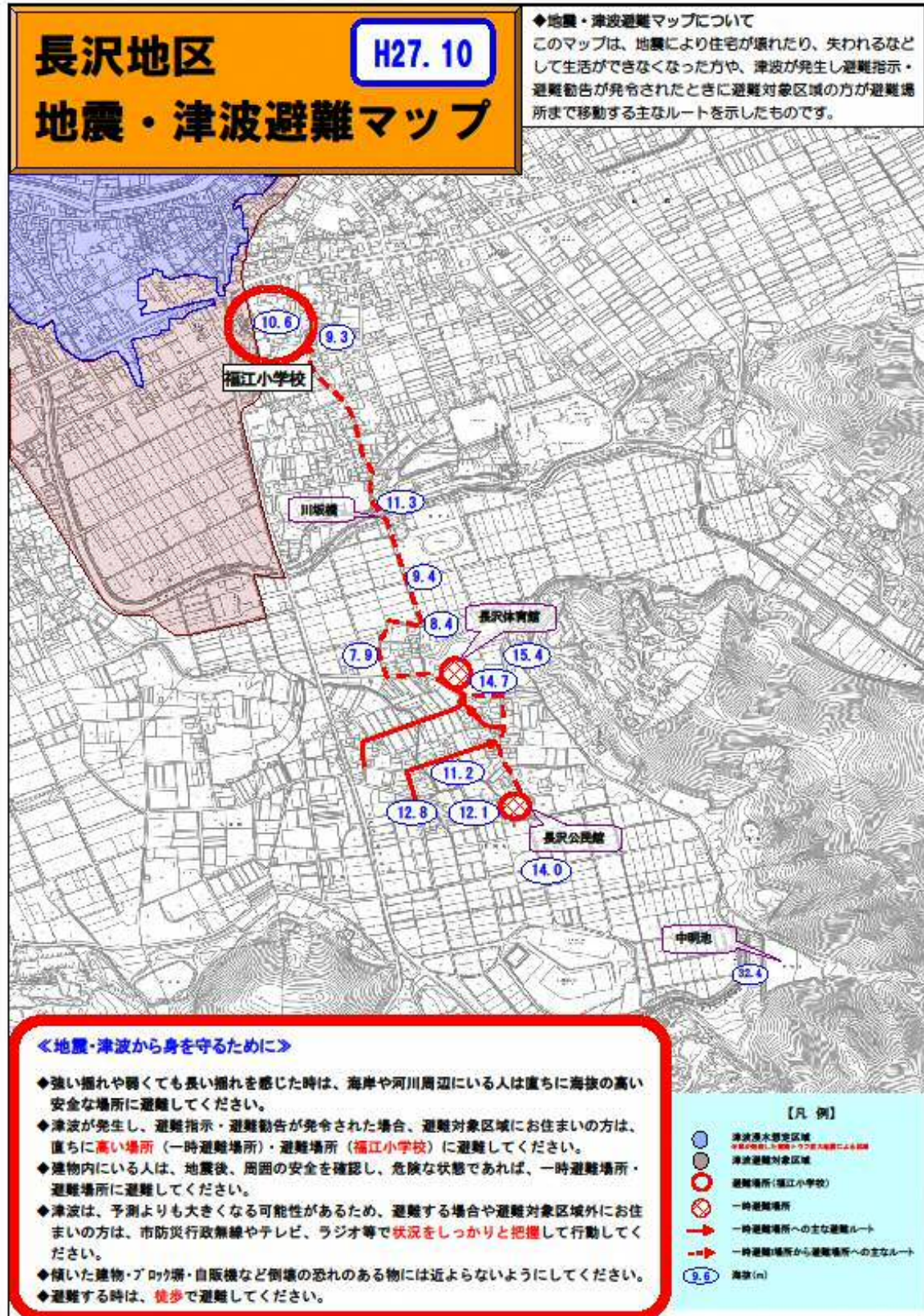
令和4年4月17日
役員委員選出、策定趣旨内容説明、意見交換会（問題点・要望）

●第2回福江校区まちづくり推進計画改定検討委員会

令和5年2月15日
原案決議、意見交換会

■福江校区 地震・津波避難マップ(地区別)

平成27年10月現在、東海・東南海地震の想定見直しされた地震・津波避難マップです(田原市ホームページ参照)。



保美地区 地震・津波避難マップ

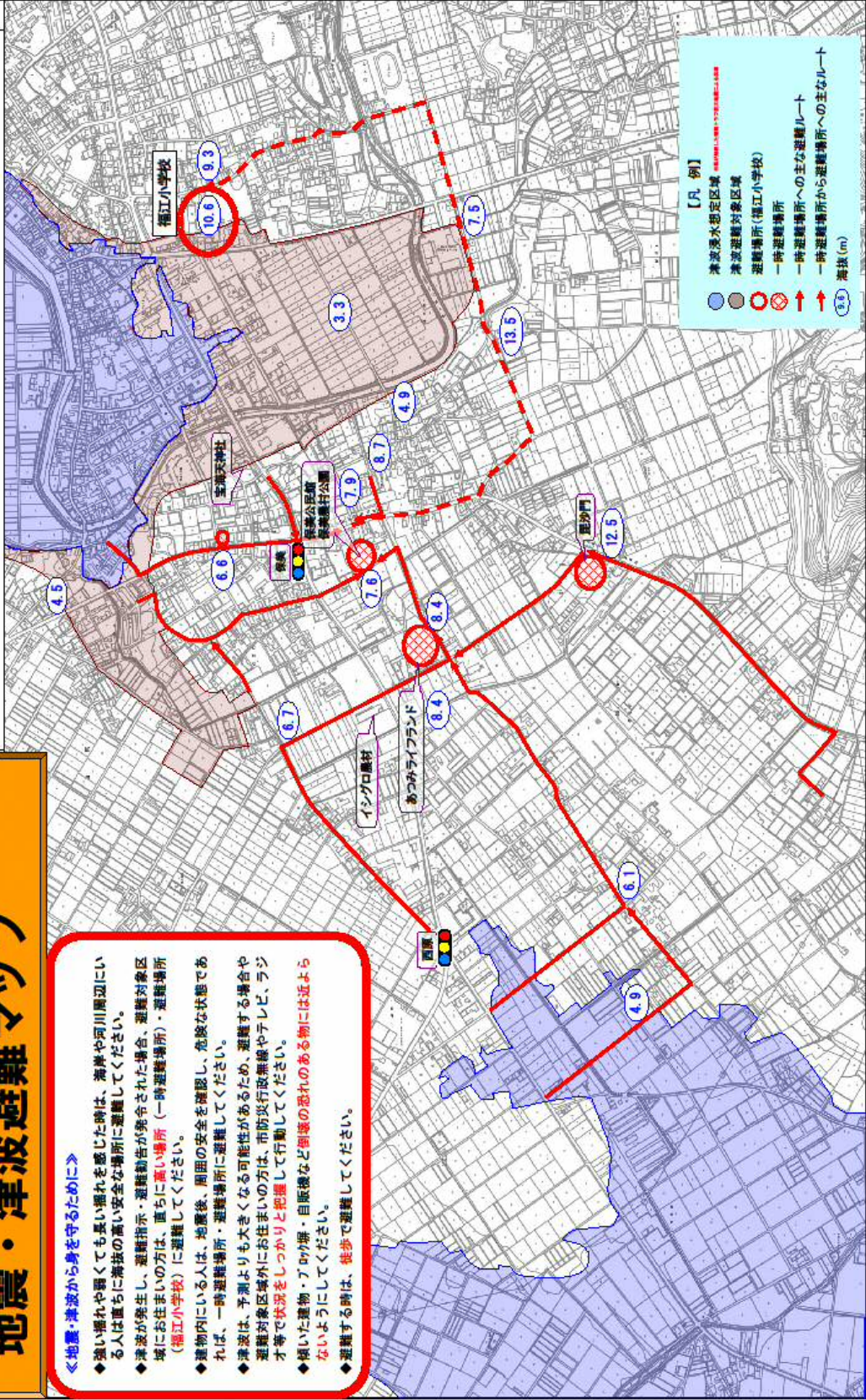
H27.10

◆地震・津波避難マップについて

このマップは、地震により住宅が壊れたり、失われるなどして生活ができなくなった方や、津波が発生し避難指示・避難勧告が発令されたときに避難対象区域の方が避難場所まで移動する主なルートを示したものです。

- ◆強い揺れや弱くても長い揺れを感じた時は、海岸や河川周辺にいる人は直ちに海抜の高い安全な場所に避難してください。
- ◆津波が発生し、避難指示・避難勧告が発令された場合、避難対象区域にお住まいの方は、直ちに**高い場所**（一時避難場所）・避難場所（福江小学校）に避難してください。
- ◆建物内にいる人は、地震後、周囲の安全を確認し、危険な状態であれば、一時避難場所・避難場所に避難してください。
- ◆津波は、予測よりも大きくなる可能性があるため、避難する場合や避難対象区域域外にお住まいの方は、市防災無線やテレビ、ラジオ等で**状況**をしっかりと把握して行動してください。
- ◆傾いた建物・アリの巣・自販機など倒壊の恐れのある物には**近づかない**ようにしてください。
- ◆避難する時は、**徒歩**で避難してください。

◆地震・津波から身を守るために>>



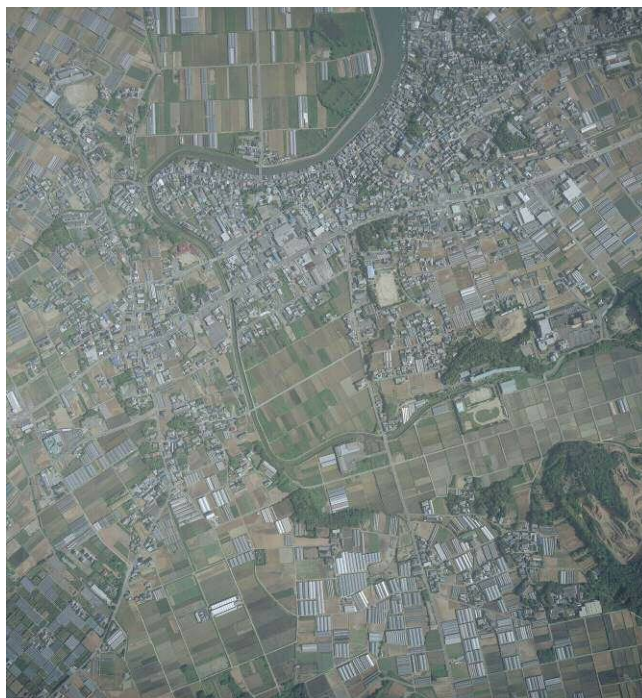
■ 空中写真で見る福江校区

向山地区



カラー空中写真 CCB20083-C31-10（平成 28 年 5 月 13 日撮影）

福江中心部
長 沢
保 美



カラー空中写真 CCB20083（平成 28 年 5 月 21 日撮影）

出典：国土地理院ウェブサイト(<http://mapps.gsi.go.jp/maplibSearch.do#1>)



福江校区まちづくり推進計画

平成19年3月策定

平成24年3月一部改訂

平成29年2月改定

令和5年2月一部改訂

福江校区コミュニティ協議会